第 32 回三遠南信サミット 2025 in 東三河

第 2 分科会　報告書

1.テーマ

多様な主体による地域で取り組む「共助」について

2.概要

災害時における共助の重要性について、行政・経済界・住民団体による意見交換から、災害時におけるそれぞれの課題認識と、特徴的な取組を共有し、地域を維持するために必要な広域的な連携や地域コミュニティの強化について議論を行った。

3.日時

令和 7 年 1 月 27 日（月）　午後 1 時 00 分から午後 2 時 30 分

4.会場

ホテルアソシア豊橋　ザ ボールルーム

5.登壇者一覧

No.	所属	役職	氏名	役割
1	日本福祉大学社会福祉学部 社会福祉学科	講師	宮國　康弘	コーディネーター
2	田原市	市長	山下　政良	発言者
3	豊川商工会議所	会頭	小野　喜明	発言者
4	浜松市	市長	中野　祐介	発言者
5	天竜商工会	会長	天野　彰久	発言者
6	飯田市	市長	佐藤　健	発言者
7	駒ケ根市	市長	伊藤　祐三	発言者
8	飯島町	町長	唐澤　隆	発言者
9	平谷村	村長	西川　清海	発言者
10	根羽村	村長	大久保　憲一	発言者
11	売木村	村長	清水　秀樹	発言者
12	天龍村	村長	永嶺　誠一	発言者
13	㈲志多ら 東薗目花祭保存会	代表取締役	大脇　聡	発言者
14	NPO 法人日本防災士会長野県支部	南信地区ブロック長	上野　真由	発言者

６.議論内容

（1）話題提供①（13：05～13：10）

コーディネーターより、（２）へつながる話題提供として、阪神・淡路大震災から得られた教訓や、東日本大震災前後に得られたデータから日々の社会的なつながりが防災・減災にも役立つという研究の紹介を行った。

（2）発言者による議論①（13：10～13：35）

ア それぞれが考える「共助」の役割と課題などについて

行政団体、経済界、住民団体の８名の方から発言をいただいた。行政５団体（田原市、浜松市、駒ケ根市、平谷村、天龍村）より「共助の中心となる地域コミュニティの重要性と担い手不足の課題」や「ドローンなどの最新技術を活用した対策の事例」、経済界（豊川商工会議所）からは「観光などを通じた平時の相互交流」、住民団体（(有）志多ら、NPO 法人日本防災士会長野県支部）からは「祭りなど文化的な暮らしの中での交流から、顔の見える関係を構築していくことで、災害時の迅速な対応につなげる」などの発言があった。

（3）話題提供②（13：35～13：40）

コーディネーターより、（**4**）へつながる話題提供として、広域的地域間共助の事例紹介や、三遠南信災害時相互応援協定に基づく支援の事例、三遠南信地域内の災害・消防協定等の状況を可視化した資料の紹介を行った。

（4）発言者による議論②（13：40～14：20）

イ 広域連携・広域的共助で取り組む提案について

13 名全員の方から発言をいただいた。「中山間地域などでは人口減少により外部からの広域的支援が必要になっている」、「多様な主体によるネットワークの構築や民間・ボランティアの活用」、「連携協定など平時の結びつきを強化し、コロナ禍を経て少なくなった顔の見える関係性を、普段から構築するとよい」「つながり・共助の仕掛け人を育成していく必要性がある」などの発言があった。

（5）議論のまとめ（14：20～14：25）

７.まとめ

災害時において共助は必要不可欠であり、そのためにも普段から活力ある地域コミュニティづくりが必要である。また、三遠南信連携で築き上げてきた多様な主体による広域的な連携は、大規模災害時においても有効に機能すると考えられ、そのためにも三遠南信自動車道の早期開通が望まれる。地域ごとに非常時の対応を考えつつ、平時より多様な主体の連携を強めていくことが重要であることを確認した

地域コミュニティの強化と普段から顔の見える関係の構築により三遠南信地域の連携が深まり、災害時はもとより、他の地域課題の解決につながるとする結論を得た。

８.当日の様子